

チゴハヤブサ

Falco subbuteo

ハヤブサ科・夏鳥

名前の由来

チゴハヤブサは「稚児隼」で小さいハヤブサの意。ハヤブサの語源は速く飛ぶことから「速飛翼（はやとびつばさ）」→「速翼（はやつばさ）」→「はやぶさ」となったという。漢字名：稚児隼



チゴハヤブサ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
フシタマシ 樹林

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）28～37cm。両翼を開いたときの長さ69～84cm。およそハトくらいの大きさ。

翼は長く、先端はとがっている。頭上から背面は青灰黒色。頬の黒いひげ状の斑が目立つ。

体の下面は白く、胸と腹には縦に黒いスジ模様が入っている。成鳥の下腹は赤茶色。

強い足と長く鋭利な爪、ガッシリとして鉤型に曲がった鋭いくちばしを持つ。

声：鳴くことはまれ。繁殖期に親鳥は「キュッキュッキュ」
と警戒の声を出すという。

飛び方：とがった翼でやや深い羽ばたきと滑空を交えて直線的に早く飛び、急旋回や急降下をして鳥を捕らえる。

類似種と区別点：ハヤブサ。

ハヤブサは大きくてカラスより少し小さい位の大きさ。成鳥の胸腹には横線があり、下腹部は赤茶色にならない。



チゴハヤブサの飛んでいる形。ハヤブサの仲間は翼の先がとがっている



チゴハヤブサ。ハトくらいの大きさ。成鳥には縦じま。耳あたりまで白い（円内）



ハヤブサ。カラス近くの大きさ。成鳥は横じま。耳のあたりは黒い

撮影：浦幌野鳥倶楽部

生息環境・分布

平地の疎林で繁殖するが、札幌市内でもかなりの数が営巣している。十勝では夏鳥。

分布：アフリカ大陸の北岸とユーラシア大陸の亜寒帯から温帯に広く繁殖地を持つ。

日本では北海道と東北地方北部で少数が繁殖し、冬はイン

ド北部から中国南部に渡る。一部本州中部以南にとどまるものもいるという。

北海道には夏鳥として4月下旬～5月上旬、全域に渡来し、繁殖する。

十勝には、夏鳥として渡来し、平地の疎林などで繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					■							
中国南部・インド北部（越冬期）	■									■		
						繁殖						

食性・他生物との関わり

主にヒバリ、ツバメ、スズメといった20～30gくらいの小鳥類。ヒヨドリやイカルなどの中型の鳥も捕食する。またトンボ、バッタなどの昆虫やコウモリなども食べる。飛んでいる小鳥を上空から翼をすぼめ急降下して襲ったり、逃げまどう鳥を急旋回して追いかけたりする。捕らえた鳥は一定の食事場所へ運んで食べるという。また、トンボな

どの昆虫は飛びながら食べるという。

巣はカラス、ハイタカ、カケスなどの古巣を利用する。捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。

繁殖生態

一夫一妻で繁殖し、つがいでなわばりを持つ。

5月上旬前後に繁殖地にやってくると営巣地上空でつがいによる求愛飛翔が行われるという。(→興味深い話の項参照)

自分では巣は作らず、カラス、ハイタカ、カケスなどの古巣を利用し、産座には小枝を敷く。

5～6月に、2～3個卵を産む。主にメスが卵を抱く。

約28日でヒナがかえり、ふ化後2週間ほどでヒナは自力で餌を食べられるようになるという。

28～34日で巣立つという。巣立ち後間もないヒナは1ヶ月から1ヶ月半くらい親から給餌を受ける。(→興味深い話の項参照)

興味深い話

■タカ科の鳥(オオワシ・ハイタカなど)が足の爪で獲物を殺し、くちばしを使って肉を引き裂くのにに対し、ハヤブサ科の鳥(チゴハヤブサ、ハヤブサなど)は足の爪で獲物をつかみ、くちばしの一撃で殺す。

■ハヤブサ科の鳥はタカ科の鳥のように上空を舞って餌を探すのではなく、高速追撃を行い、上空からの急降下によって獲物を捕らえる。その際のスピードは、瞬間的には時速200kmを超えるという。

■繁殖地にやってくると、営巣地上空をつがいで旋回しながら、オスがメスに向かって急降下したり、2羽一緒に急降下し、樹冠をかすめるように高速で飛んだりする求愛飛翔を行う。

■繁殖期にはオスが差し出す獲物をメスが体をひねり、空中で受け取る求愛給餌も行われるという。

■巣立ち後間もないヒナは親の姿を見つけると「キーキー」と鋭い声で鳴いて、親に餌をねだるという。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。



チゴハヤブサ。

配慮事項

営巣するための樹林と、その周辺に農耕地、草地、牧草地、原野などの広く開けた空間が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」日高敏隆監修、平凡社 1996

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

米川洋 (1992) 北海道の集約農業地域におけるチゴハヤブサの食性。上土幌町ひがし大雪博物館研究報告、11: 49-53.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類